



協力隊だより

発行
令和5年12月
編集
成田 善彦



令和4年度採用 成田 善彦

支援企業・名古屋市民休暇村

こんにちは！

協力隊の成田です。

2023年最後の活動報告になります、

10月に数年ぶりに、王滝森林鉄道のイベントが開催されたので

お手伝いに行ってきました。

当日はあいにくの天候でしたが約500人が来場されて

林鉄にコアなファンがいる事に驚きました！

体験乗車や連結作業を見たりと貴重な体験をする事が出来ました。

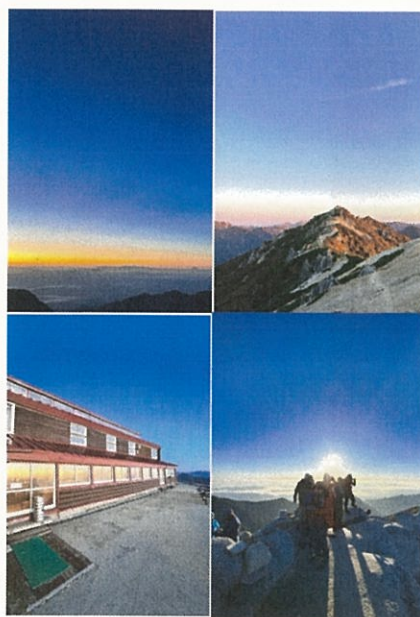


【おんたけ休暇村での活動】

支援企業の休暇村では、10月の登山企画に同行させていただき、初の北アルプス燕岳に登って来ました。

燕山荘に泊まり、翌朝極寒のなかご来光を見る事が出来ました。

毎回企画に同行させていただき知識の引き出しの多さに本当に感動しました、引き続き色んな企画に同行して勉強していきます。

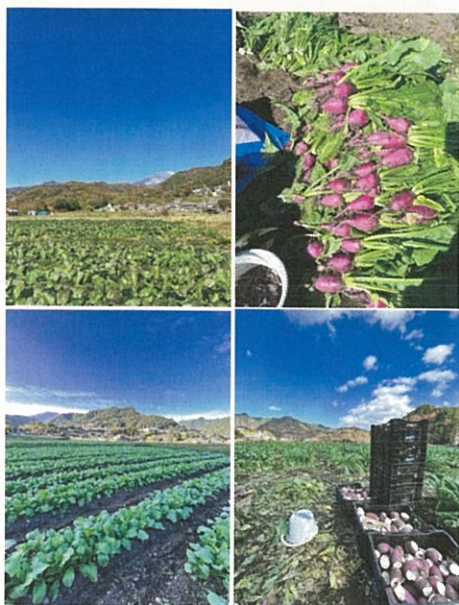


【人生初！農業！】

今年の自身の最大のトピックとして人生で初めて農業をした事で、色々な方々にご教示頂きながらアマカブラを作りなんとか収穫し出荷まで完了する事が出来ました。

十数年使われていなかった圃場を借りる事ができて最初の草刈りはされた状態でスタートしましたが、トラクターでの耕起から収穫までの作業は、かなり大変でしたがほぼ一人でこなしカブの出来も良かったかなと思っています。ですが、課題も沢山あり、作業していく中で来年はこうしようと考えるととてもワクワクしています。

来年は、もう一つ圃場を借りて作付けしたいと思っています。楽しみです！





雪も降り始め、支援企業の Re x t 滝越でもキャンプ場の片付けや薪割りなど本格的に冬を迎える準備が始まり、いよいよ私にとって王滝での初めての冬越しが始まりそうです。皆様はいかがお過ごしでしょうか。ここ1ヶ月では、長野県立大学生のDIYイベントや、三浦ダムについてお話を聞く機会があったり、どんぐりの粉の作り方を習ったり、どんぐり料理をいただいたりする機会があり、王滝村についてまた多くのことを知ることができました。

【菌ちゃん農法での畝作り】

今回はここ最近で一番力を入れている、休耕田を活用した畑の実験についてお話ししようと思います。半年前くらいの協力隊だよりも書きましたが、私は「菌ちゃん農法」という糸状菌を利用した自然農に挑戦しています。

糸状菌とは、きのこの菌の仲間で、朽ちた木や枯れ葉の裏にくっついていて白い糸のようなものです。なぜこの糸状菌を使うかというと、空気中の窒素を土の中に固定してくれる「窒素固定菌」と繋がれる性質を持っていて、良い土壌作りで欠かせない窒素を畑に育んでくれるからです。



【落ち葉の中の糸状菌】

糸状菌は、土の中で窒素固定菌や生えている木や植物などを繋ぎ合わせ、水や栄養を行き渡らせるネットワークの役割を担っています。植物が光合成して作ったエネルギーを得たり、窒素固定菌から窒素を貰い他の植物に渡してあげたりと、実は生態系の中で重要な役割をになっている優れたものなのです。また弱い植物がちゃんと成長するまで根に入り込み栄養を分ける手助けもしてくれます。

それらの糸状菌の性質を利用したのがこの「菌ちゃん農法」なのです。つまり、糸状菌とそれが必要とするエネルギー源さえあれば、糸状菌が野菜を勝手に元気に育ててくれるということです。ですので、畝の中には糸状菌が喜ぶものだけをいれるという風に考えられています。

稲藁も人が作ったものであり、糸状菌の餌にはなりにくいので入れない方がいいという意見もあるほどです。つまり、自然の森のような状態を畝の中に作れば良いということです。とにかくそこらにある、丸太、竹、木枝、枯れ葉を順番に入れて土を被せて水に当たりすぎないようにマルチを被せる。これだけです。



実際にやってみた時は、稲藁や柔らかい干草も自然のものと認識してふんだんに投入しましたが、それが実は自然物ではなく、糸状菌の作り出す生態系には馴染まないかとも思い直し、現在やり直しています。

この農法のいいところは、一度この畝を作ってしまったえば、数年間何もしなくていいことです。追肥も耕起する必要も草を抜く必要もないので、魅力的です。そしてこれが上手くいっただら王滝の資源のみでたくさんの野菜が育てられる楽な農法だと思います。しかし原理が分かって、上手くできるとは限らないことが分かったので引き続き改善を重ねながら成功させたいです。

【試行錯誤中の畝】



【今後のこと】

野草・薬草や王滝の木材を使った企画を考えています。1月ごろから始めたいと思っていますので、楽しみにしてください。